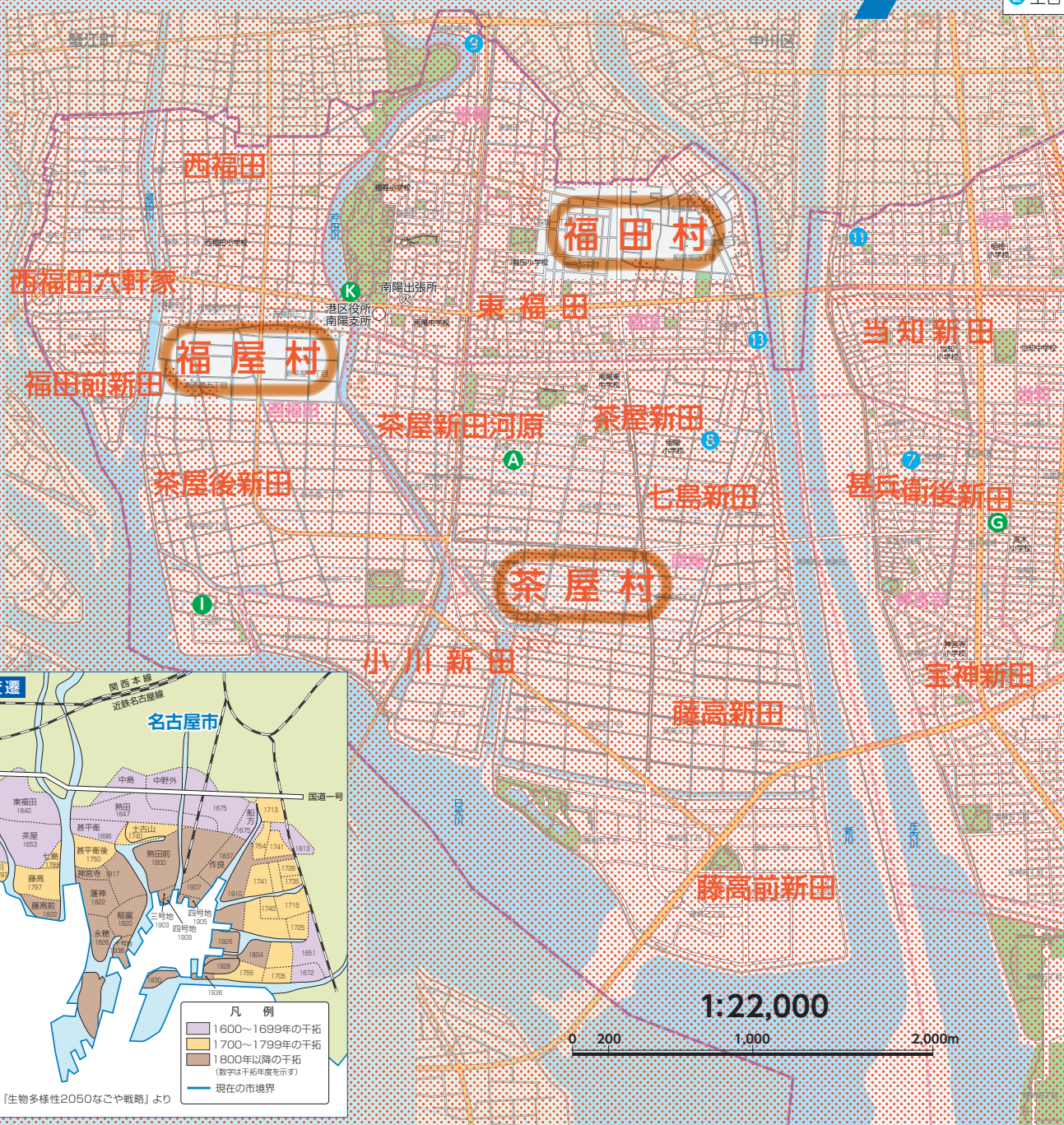


港区 歴史に学ぶ防災マップ

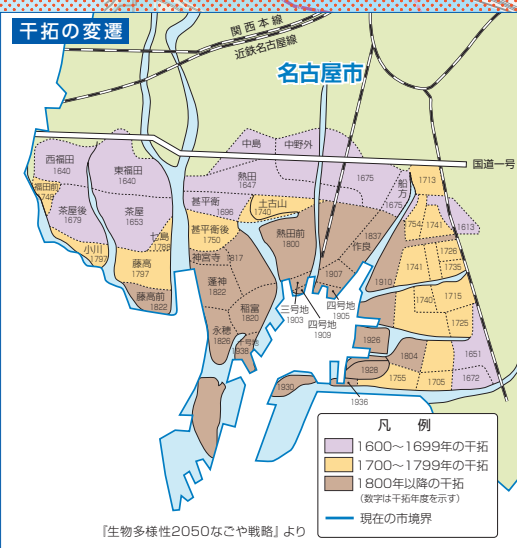


東南
① 半壊
伊勢
② 土古



1:22,000

0 200 1,000 2,000m



港区 地名の由来

- A** 秋葉(あきは) 名古屋茶屋町の呉服所・茶屋長意が開発した「茶屋新田」のうちで、地区内に「秋葉社」が所在したことから。
- B** 入場(いりば) 荒子川の柳瀬橋の付近に「入(いり)」があり、「秋場」と呼ばれていたことから。現在は「入」の字を当てている。
- C** 大手(おおて) 大堤防があったことから、「大堤(おおて)」と呼ばれるようになり、「大手」の字が使われるようになったといわれる。
- D** 砂美(さなみ) 元々低湿地であったところを名古屋港先の浅瀬(しゅんせつ)砂で埋め立てたことから。
- E** 金川(かねかわ) 中川運河の開削の際に造成された運河沿岸の土地で、東は「川」、西は「船」のように、「川・船」を町名に用いたことから。
- F** 木場(きば) 貯木池などが多かったことから。
- G** 高木(たかぎ) 現在の高木学区と神宮寺学区の境辺りに、背の高い一本松と称される松の大きな木があったことから。
- H** 築盛(ちくもり) 盛り上げて築いたところという意味。
- I** 天目(てんもく) この一帯が一時期、東本願寺別院の所有で、この地の米を天目型の茶碗で仏前に供えるのを常としていたことから。
- J** 東海通(とうかいどおり) 江戸時代に東海道の海路「宮から桑名」間の代用の陸路交通に充てられたことから。
- K** 南陽(なんよう) 尾張部の南端に位置し、伊勢湾に臨み比較的暖かさを感じさせるので、「南の陽(ひなた)」の意味で名付けられた。
- L** 丸池(まるいけ) この付近を流れていた用水で、幅広く底深い池状の箇所があり、水が少なくなくてもここだけは池をなしていたことから。

凡 例

- ・ は、1891
- 主な村落
- ・ 朱色の地名は、189
- 主な村落名と村名
- (表記は常用漢字を

海地震	③ 旧区役所	⑦ 性信町付近	⑪ 上空からの小碓町
した民家	④ 港北公園	⑧ 南陽小学校茶屋分校	⑫ 汐止町にて奉仕活動
湾台風	⑤ 名港東埠頭	⑨ 南陽町福田の民家	⑬ 浜の湯(小賀須)
競馬場	⑥ 旧西稻永電停付近	⑩ 魁町付近	

マップの見方・要点

- ・マップは、明治24年頃に点在していた、村落のおよその位置を示したものです。当時は区域に6つの村がありました。
- ・干拓の変遷図を見ると、国道1号線付近から南は、江戸時代以降の干拓で作られた土地であることが分かります。
- ・地名の由来を見ると、土地の成り立ちやその歴史が分かります。マップ中にその地名の位置を示しています。
- ・年表は、港区関連の災害等についての出来事です。裏面解説編には、濃尾地震以降の災害についての説明を記載しています。
- ・マップ中の番号は、裏面解説編の写真が撮影された位置を示しています。



港区 災害の歴史年表		※江戸時代以前の月の表記は西暦を基準にしています。
年代	主なできごと	
1586(天正13)年	1月18日 天正地震。飛騨もしくは尾張を震源とする巨大内陸地震。名古屋の震度は6〜7と推定。	
1707(宝永4)年	10月28日 宝永地震。名古屋の震度は5〜6と推定。名古屋城の建物が大きく損傷。	
1854(嘉永7)年	12月23日 安政東海地震。名古屋の震度は5〜6と推定。翌24日、安政南海地震。名古屋の震度は5と推定。	
1860(万延元)年	暴風雨により伊勢湾に高潮が起こり、小川付近の堤が切れたことにより一帯が浸水。	
1891(明治24)年	10月28日 濃尾地震。内陸地震としては国内最大級。震源は岐阜県根尾村。名古屋市の震度は6〜7と推定。愛知県の死者2,638名。	
1907(明治40)年	名古屋港開港。	
1937(昭和12)年	10月1日 旧南区から分区独立し港区誕生。(面積24.53km ² 人口41,300人)	
1944(昭和19)年	12月7日 東南海地震。震源は紀伊半島沖。名古屋市の震度は5〜6と推定。港区の一部では震度7。愛知県の死者438名。港区では死者11名。市の南部に被害が集中し、港区では築地地区で約半数の世帯が被災。臨海部では液状化もみられた。→裏面写真①	
1945(昭和20)年	1月13日 三河地震。震源は三河湾。名古屋市の震度は4〜5と推定。愛知県の死者2,306名。港区では死者5名。37日前の東南海地震に誘発された地震と推定。稲永新田の愛知航空機永徳工場では噴水噴砂が甚だしく、浸水被害が発生した。	
1955(昭和30)年	10月1日 旧海部郡南陽町を港区に編入。(面積39.41km ² 人口77,698人)	
1959(昭和34)年	9月26日 伊勢湾台風。名古屋港の潮位は観測史上最高の5.31mを記録。港区では約9万4千人が被災し、死者・行方不明者375名。港区全域が浸水し、20日以上水没状態となり、完全排水までに79日を要した。→裏面写真②〜⑬	
1964(昭和39)年	名古屋港高潮防波堤完成。	
2000(平成12)年	9月11日 東海豪雨。名古屋市域の約37%が浸水。港区では床上浸水77世帯、床下浸水874世帯。	

(明治24)年頃の
1(明治24)年頃の
使用)

は南海トラフが発生した大地震です。

港
区

港区 歴史に学ぶ 防災マップ 解説

(地名表記は、原則として災害当時の地名です)

解説編の見方・要点

- ・写真や図などにより、伊勢湾台風を中心に過去の災害の被害が分かります。伊勢湾台風では、特に南陽支所管内が長い間浸水していたことがわかります。
- ・被災当時の貴重な記憶を伝えるため、お二方の体験談と二つの体験記を掲載しました。

① 半壊民家 (港本)

◎濃尾地震と港区

濃尾地震は、1891(明治24)年10月28日午前6時38分に岐阜県本巣郡根尾村を震源として発生した国内最大級の内地地震です。2府12県の広範囲で、死者7,880人、全壊建物164,611棟、半壊建物123,158棟という甚大な被害が出ました。愛知県では2,638人が亡くなりましたが、うち名古屋市中では187人(人口約16万5千人)、愛知郡では152人(人口約12万3千人)、海東郡では289人(人口約8万4千人)となっています。

1891(明治24)年当時の港区は、愛知郡明徳村・寛政村・宝田村、海東郡福田村・茶屋村・福屋村と呼ばれていましたが、このうち被害の状況が明らかになっているのは明徳村と寛政村のみです。

濃尾地震における港区の主な村の被害

村名	人口(人)	戸数(戸)	死者(人)	全壊率(%)
明徳村	2,336	450	2	7.3
寛政村	3,940	675	1	4.6

[明治24年(1891)年10月28日濃尾地震の震害と震度分布]より

※数値には複数説があります。

◎東南海地震と港区

東南海地震は、1944(昭和19)年12月7日午後1時36分に震です。名古屋市内の震度はおおむね5〜6でしたが、港区の一きくしました。港区において死者11名、負傷者149名であり、住れています。また名古屋港では埠頭、護岸、湾岸施設に被害を受け、三菱航空機大江工場で管制下のため具体的な被害や写真の報道が禁じられました。

◎三河地震と港区

三河地震は1945(昭和20)年1月13日午前3時38分頃に三港区では死者5人、負傷者13人、全壊建物40棟、半壊建物140して、稲永新田の愛知航空機永徳工場では噴水噴砂が甚だしく、し、他4つの工場や倉庫でも一部浸水しました。

◎伊勢湾台風と港区

② 土古競馬場での避難生活



被災者約6,000人がスタンドなどで寝泊りしました。

③ 旧港区役所にて 応急補修資材の斡旋相談



⑥ 災禍2日後の西稲永電停付近



区内の市電も大きな被害を受けました。軌道復旧までに1年6ヶ月もの運休を余儀なくされた所もあり、復旧が路線廃止かの議論もありました。

⑦ 惟信町付近



⑩ 魁町付近



④ 港北公園



⑤ 名港東埠頭



⑧ 南陽小茶屋分校



⑨ 南陽町福田の民家



⑫ 勤勞奉仕高校生によ



伊勢湾台風は、1959(昭和34)年9月26日、紀伊半島に上陸した大型で非常に強力な台風です。伊勢湾を通過する際の風向が南東で、高潮が発生しやすい状況であったことなども影響し、東海地方を中心に甚大な被害をもたらしました。

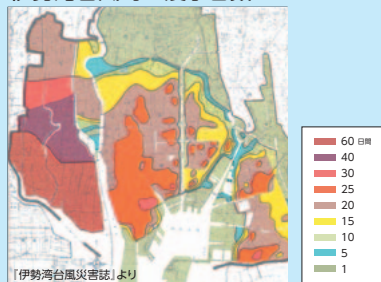
名古屋港の潮位は観測史上最高の5.31mを記録し、海岸堤防の高さ(4.8m)を大きく上回りました。

港区では特に高潮による被害が大きく、宝神地区や南陽地区では堤防が決壊し、その他の地区でも堤防をこえて高潮が浸入しました。港区は全域が浸水して20日以上水没状態となり、完全排水までには79日を要しました。また、人的被害や家屋の被害以外にも、優れた穀倉地帯であった南陽町一帯が浸水し、収穫が全くできなくなるなど、農業関係の被害も甚大でした。

伊勢湾台風による被害

	港 区	名古屋市
死者・行方不明者	375 名	1,851 名
負傷者	10,394 名	40,528 名
全半壊流出家屋	16,723 戸	50,972 戸
浸水家屋	3,746 戸	67,352 戸

伊勢湾台風時の浸水日数



◎東海豪雨と港区

2000(平成12)年9月11日から12日にかけて、東海で集中豪雨です。秋雨前線に台風の暖かく湿った気流がことにより発生し、名古屋市では、1時間で最大97.降り、総降水量は566.5ミリといずれも観測史上最も高しました。

市内では、新川の堤防が決壊、天白川流域で内水氾濫、伊勢湾台風次に次ぐ浸水被害をもたらしました。港で道路が冠水し、床上浸水77世帯、床下浸水874世帯ありました。

都市における水害として注目が集まり、全国の自治体ハザードマップを作成するきっかけとなりました。

した
町)



紀伊半島沖を震源として発生した海溝型地
部では震度7という激しい揺れで被害を大
宅の全壊率は市内で最も高かったといわ
け、臨海部では液状化も見られました。重工
は工場生産が半減しましたが、戦時報道

河湾を震源として発生した内陸地震です。
棟となっています。また工場への被害と
2つの工場はそれぞれ約1/3、1/5が浸水

11 上空からの小碓町



る土の作成



13 自衛隊による簡易浴槽「浜の湯」



『伊勢湾台風 南陽消防団布目班長の記録
～港警察署内被害状況南陽町方面～』より

伊勢湾台風の記憶

・南図書館伊勢湾台風資料室所蔵 「伊勢湾台風記録 名古屋市立港楽小学校」から

私たちは区役所からバスで、中村小学校へ避難しました。バスから
おりると中村の人達がむかえてくれました。講堂にはきれいにいすが
ならべてありました。私達は、うしろの方に荷物を、おきました。それ
から少したつと会長さんや婦人会の人達が食事のしたくしてくれまし
た。食事をしてからもうふをくれました。学校は一日勉強しただけで、
一週間くらいやすみでした。学校がはじまると私は仮入学でした。
一ヶ月ごやっかいになりましたこの学校とおわかれです。六年生の生
徒や先生が見送ってくれました。バスに乗ると、婦人会の人達はテー
ブをなげてくれました。このご恩はいっしょうわすれないことでしょう。



港楽小児童
避難所との
お別れ



中村小学校
にて食事を
とる児童たち

・西築地学区 高羽さんの体験談

生き残ることができたのは、三つの運に恵まれていたからだと思っています。当時私は西築地で魚の卸売業を
営みながら、中学校のバスケットボールチームのコーチをしていました。指導をしていたチームが大会で優勝し、
その日先生に食事へ誘われたのですが、誘いをお断りしました。台風の規模等の情報は接近前まで分からなかつ
たのですが、何となく嫌な予感がしたのです。これが一つ目です。二つ目は、台風上陸後、冠水の中を、斜めに流
されるように避難したのですが、建物にうまく流れ着いたことです。もし逃げる方向を間違えて河へ流されていた
ら、無事ではなかったでしょう。三つ目は、水が引き始めた時に、違う部屋へ移ろうと呼びかけ、移動をしたので
すが、絶好のタイミングでした。移動した数分後、元いた場所の天井が崩れ落ちていくところが見えたのです。

災害から身を守るためには、日頃から避難する道やその土地の特徴を知っておくことが大切だと思います。私
は、避難する道は全て自分の頭の中に入っていますし、自分が住んでいる学区はもちろんのこと、隣の学区の土
地がどのような特徴があるのかということも把握しています。

・福田学区 布目さんの体験談

当時私は自営業をしており、消防団の班長としても活動していたため、台風が過ぎ去ったあとは、決壊した堤防
の復旧作業のお手伝いをしていました。県会議員や市会議員の方々が被害の視察に来た時には、案内役として
一緒に舟に乗って状況の説明等もしました。改めて被害のひどさや、大型台風及び高潮の威力のすさまじさに恐
怖を感じたものです。そんな中、自衛隊の方が「浜の湯」(写真⑬)という簡易風呂を新川の堤防の土手に作ってく
れ、皆本当に喜んでいました。私自身も被災後二週間ぶりに入浴し、地獄から天国に行ったような気持ちでした。

私は、被災後の状況にたくさんシャッターを切りました。昔から写真を撮ることは好きでしたし、カメラが水没せ
ずに済んだので、撮ろうと決意しました。ただ、人が悲しんでいるときにカメラを向けるのはとても勇気がいりまし
た。一枚目のシャッターを切るときには、それは大変度胸がいりましたよ。

誰かの目に留まってくればという気持ちでシャッターを切り続けましたが、今ではその写真を冊子にしてもら
えたり、展示してもらえたりしながら日の目を浴びることができて嬉しく思います。

・南図書館伊勢湾台風資料室所蔵「伊勢湾台風災害誌 名古屋市小中学校(港区)」から

朝になっても避難者は増すばかりで水の引いた講堂下の教室へ窓硝子を割って侵入する者あり。一種の不穏
な空気がただよう。非常な時に理性を欠いた行動をするものがあると、不測の事件が起きるおそれのある状態
であった。区役所の必死の救援業務にさえ不満をもつものがあってか、窓硝子に向かって投石する乱暴ものもあり
警察に巡視の増員を要請する。

大災害時には予期せぬことが起こってしまうものなんですね。
でも、このような行動は災害復旧の妨げになってしまうので、絶対にはいけないことです。



★各機関の災害資料や地図などを 気軽に活用しましょう！

- ・名古屋市港図書館
港区港楽一丁目14番16号 ☎052-651-9249
- ・名古屋市南陽図書館
港区秋葉一丁目130番地の79 ☎052-301-2116
- ・名古屋市鶴舞中央図書館
昭和区鶴舞一丁目1番155号 ☎052-741-9822 (2階)
- ・名古屋都市センターまちづくりライブラリー
中区金山町一丁目一番一号 ☎052-678-2212
金山南ビル2階
- ・名古屋市港防災センター
港区港明一丁目12番20号 ☎052-651-1100

★主な参考文献

『明治24年(1891年)10月28日濃尾地震の震害と震度分布』(愛知県防災会議地震部会)、『今も生きる、濃
尾地震』(社団法人中部建設協会)、『昭和19年12月7日東南海地震の震害と震度分布』(愛知県防災会議地
震部会)、『昭和20年1月13日三河地震の震害と震度分布』(愛知県防災会議地震部会)、『戦争に隠された
「震度7」』(吉川弘文館)、『伊勢湾台風災害誌』(名古屋市)、『生物多様性2050なごや戦略』(名古屋市)、『忘
れない、東海豪雨』(社団法人中部建設協会)、『東海豪雨水害に関する記録』(名古屋市)、『名古屋市港区誌
区制五十周年記念』(港区制施行五十周年記念事業実行委員会)、『私たちの郷土－新しい時代へ「南陽町」
名古屋市合併50周年記念誌』(合併50周年記念事業実行委員会)、『新修名古屋市史資料編』(名古屋市)、『明
治・昭和 東海都市地図』(柏書房)、名古屋市公式ウェブサイト

※マップ中の説明のない写真は名古屋市港防災センターが所蔵しています。

発行/問合せ先

名古屋市港区役所総務課

港区役所 名古屋市港区港明一丁目12番20号
☎052-654-9612

掲載記事・地図及び写真等の
無断転載・複製を禁ず

平成29年2月発行

地方を襲つ
が流れ込ん
0ミリの雨が
い値を記録

濫をするな
区では、各所
帯の被害が

体において